



Hokkaido Lifelong Learning Association

ほっかいどう 生涯学習 Lifelong Learning

ホームページアドレス <http://www.hsgk.jp>

新しい自分との

出会いや発見がきっとある



(写真提供 三原和廣氏)

(撮影地 石狩市厚田)

目次

- | | | | |
|----------------------|---|-------------------------|---|
| ●平成27年度事業計画…………… | 2 | ●青年団活動の歴史をひもとく（寄稿）…………… | 5 |
| ●これからの生涯学習を展望して…………… | 4 | ●随想29…………… | 6 |

生涯学習協会「平成27年度事業計画」の概要

次のとおり平成27年度の事業を計画いたしましたので、皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。

会計区分	事業名	内 容
公益目的 事業(公1)	1 生きがいづくり 生涯学習促進 事業 (道補助事業)	<p>国際化・高齢化・情報化等社会の変化に対応し、生涯にわたって生きがいのある人生を送るために、「生きることは学ぶこと」の視点から、道民への学習の機会を提供する。</p> <p>○テーマ:「人生を共に豊かに過ごすために」</p> <p>○期 間: 5月～1月</p> <p>○会 場: 全道7会場</p> <p>○対 象: 道民、1会場100人程度</p> <p>○内 容: 講演・実技・演習等を基本に、実施市町村の計画する内容を支援する。</p>
	2 かでる講座事業	<p>道民の学習ニーズや今日の課題に焦点をあてた講座を開設し、道民への学習機会を提供する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催回数: 10回程度 ・開催時期: 4月～12月 ・会 場: かでる2・7 ・対 象: 道民、1講座140人程度 ・講座時間: 1講座2～3時間 <p>○連携開催を希望する市町村にICT機器を使用した遠隔学習を実施する。</p> <p>○講座修了後、講師と受講生の茶話会を広場交流コーナーで実施する。</p>
	3 ほっかいどう生 涯学習ネット ワークカレッジ (道民カレッジ) 事業の推進(道 教委受託事業)	<p>学習ニーズの多様化、高度化に対応するため、学ぶ意思のある道民のすべてを対象に、産学官が連携して総合的な学習機会を提供するとともに、自立した北海道の創造に寄与する人材を育成し、生涯学習のネットワーク化を図る。また、ジュニアコースを新設し、北海道を担う小中学生の生きる力の育成を図る。</p> <p>○主催講座</p> <p>1 ほっかいどう学大学インターネット講座 インターネットによる動画配信と制作したDVDを市町村や高等学校に配布し、広く道民に高度な学習機会を提供する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加大学: 8大学程度 ・配信及び配布開始: 11月～ ・企画運営: 参加大学を含む実行委員会 ・配布DVDの学習講座を開催する市町村と連携した取組みを実施する。 <p>2 ほっかいどう学出前講座地域活動推進事業 市町村や団体が、地域の様々な機関との協働を進め、コミュニケーションスキルの向上を図る学習プログラムを実施し、地域活動やまちづくりに貢献する人材を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画実施者: 市町村や団体 ・申込み方法: 公募(決定は道教委) ・事業規模: 2圏域2会場 ・事業内容: 1会場当たり5回程度 ・そ の 他: 修了証の発行及び登録リストの配布 <p>前年度実施した市町村(団体)が引き続き行う2年次目以降の取組みについて、情報交流する機会を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・26年度実施市町村: オホーツク管内(興部町)と根室管内(別海町) ・開催場所: 未定 <p>○連携講座 道民カレッジに賛同する大学等や市町村、民間教育事業者等が実施する講座・セミナーを体系化し、道民に講座情報を提供し学習機会の拡充を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登録講座数: 4,400講座(目標) ・受講者数: 104,000人(目標) <p>札幌近郊の市町村で実施している「市民カレッジ」と「道民カレッジ」の連携を図る担当者会議の実施を検討する。</p>

会計区分	事業名	内 容
		<p>○普及啓発・情報提供 道民カレッジ事業の推進のため、次の普及啓発及び情報提供を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道民カレッジガイドブックの作成及び配布 ・カレッジだよりの作成及び配布 ・ポスター、リーフレットの作成及び配布 ・道民カレッジ手帳の作成及び交付 ・ホームページ及びツイッターによる適時な情報提供
	4「道民カレッジ」大学インターネット講座支援事業	<p>「道民カレッジ」の主催講座である「大学インターネット講座」の補助教材を作成すると共に、レポート作成を支援する学習会を開催するなど、広く道民の学習活動を支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○作成部数：200部 ○発行時期：9月下旬 ○レポート学習会：動画配信及びDVD配布後 ・開催場所：かでの2・7及び学習会を希望する市町村
	5「道民カレッジ」ボランティア活動支援事業	<p>道民カレッジの充実と推進を図るため、道民カレッジボランティアによる自主的・自発的な活動を支援すると共に、称号取得者の技能・知識等の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人 数：約120人 ○活動場所：全道5圏域 ○活動内容：カレッジ生の行う次の活動を支援する。 <ul style="list-style-type: none"> ・カレッジ事業への運営協力、支援活動 ・カレッジ生の学習相談活動 ・単位取得方法及び称号取得へのアドバイス活動 ・称号取得者セミナーの実施 ・カレッジ生の加入促進活動 ・カレッジ生間の情報交換会の活動 ・新規講座の自主的な企画、実施活動
	6 学習成果実践事業	<p>道内各地で学習している道民が、その学んだ成果を活用して、自ら講座を企画・実施し、地域づくりを担う実践力を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○開催時期：4月～ ○開催会場：道内5会場 ○対 象：道民 ○内 容：講演・実践発表等、かでの講座の遠隔学習、大学インターネット講座の学習
	7 広報誌発行事業（道補助事業）	<p>会員及び生涯学習関係機関・団体等に広報誌を通して情報を提供し、生涯学習の振興に寄与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○回 数：年4回 ○部 数：1回1,200部
	8 生涯学習情報資料の展示・提供事業（情報交流広場管理事業）（道教委受託事業）	<p>生涯学習に関する図書・資料・リーフレットなどを展示・提供するとともに、道内市町村や団体の生涯学習の取組や成果等を広く紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビデオ、LD、大学インターネット講座DVDの視聴 ・道内市町村の広報誌及び情報リーフレットの展示 ・ガイドブック、ポスター及び連携講座関係資料の展示 ・道内市町村及び団体の学習活動に関する実践成果等の企画展示会の開催 ・道民カレッジ生の交流コーナーの活用促進 ・広場を使用する道民のために、土日祭日、平日夜間（17：00～21：00）の開館を行うため、臨時職員を配置する。
	9 視聴覚教材貸出事業（道教委受託事業）	<p>生涯学習活動の振興を図るため、道教委保有の視聴覚教材を官公庁、学校、社会教育関係団体等に貸出しする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・16ミリフィルム（800本）、ビデオ（4,195本）、DVD（482本）等 計5,477本
収益事業等（その他事業）	10 北海道スポーツ推進委員協議会受託事業	<p>北海道スポーツ推進委員協議会の管理運営のために事務局を受託し、道民の生涯スポーツ活動に寄与し、生涯学習社会の実現を図る。</p>

これからの生涯学習を展望して

北翔大学教育文化学部教育学科

教授 高田 茂

住民運動による自然保護活動について、天神崎（和歌山県田辺市）へ出掛け学習してきました。これからの生涯学習に想うことより、その学習の一端をご紹介させていただきます。

自然保護を目的に住民活動として発展した「天神崎の自然を大切にする会（天神崎ナショナル・トラスト運動）」ですが、この会は、「自然を大切に」することを大事にして、長きに亘り幅広く住民から支持され活動されてきたものであります。

その活動の中心的な役割を担ってこられたのが玉井済夫氏（天神崎の自然を大切にする会専務理事）です。元県立高校の校長先生で生物を専門とされ、この地の自然保護関係には大変お詳しい方です。その玉井先生から「天神崎の自然を大切にする会（天神崎ナショナル・トラスト運動）」について、活動当初からの会の取り組みをスライドをとおして分かり易くお話していただきました。

この活動は、和歌山県田辺市天神崎の海浜地区をリゾート地として、開発される土地を地区住民によって自然保護を目的に土地の買い取り運動を始めたことから始まったのです。いわゆる「天神崎の自然を大切にする会（天神崎ナショナル・トラスト運動）」といわれるものであります。当時の市民は運動そのものをよく理解できていませんでした。そもそもナショナル・トラスト運動とは、1895年にイギリスの弁護士など3人の市民が中心となって創立されたものであります。国民のために国民自身の手で価値のある美しい自然と歴史的建造物を寄贈、遺贈、買い取りなどで入手し、保護管理し、広く一般に公開するという環境保護運動の一手法でもあります。

日本では1960年代に作家の大佛次郎氏がその著書「破壊される自然」の中で「歴史的名勝および自然的景勝地のためのナショナル・トラスト」として紹介したことによって入ってきたと言われます。従って、現在では日本各地でナショナル・トラスト運動が環境保護運動の手法として用いられ行われているわけです。身近なところで「知床ナショナル・トラスト運動」などが、知られている運動の一つでもあります。

天神崎は和歌山県田辺市の中心部に近い、一見すると日本ではよく目にする磯が広がるだけの地域であるが、黒潮の影響を受ける海と、磯に隣接する森林とが連携し豊かな生態系を維持しています。天神崎は地元住民にとって生活に近い自然として位置付き、同時にシンボリックな存在であります。

その天神崎に高級別荘地としての開発計画が持ち上がり、天神崎の自然を失うことに危機を感じた、当時地元高校教師の外山八郎氏らが始めたのが「天神崎の自然を大切にする会（天神崎ナショナル・トラスト運動）」の始まりと言われます。1974年に始まった運動は、実に40年以上にわたり継続され今日に至っていますが、これらの運動を支えているのは地元住民の「草の根運動」です。同時に創始者の外山八郎氏に代表される教職者が多く関わり、天神崎の運動の性格やあり方を特徴づけるひとつの大きな要素となっています。

実際、「天神崎の自然を大切にする会（天神崎ナショナル・トラスト運動）」は、単なる自然を大切にする運動ばかりでなく、子ども達に「生きた教材」を提供しているのです。この運動の中心となる教職者から周辺の実行者に至る方々が、この活動を支えています。毎年、県内各地はじめ遠く京阪神・中京方面からも小中学生・高校生の皆さんが自然体験学習に訪れますが、まさに「生きた教材」をとおして、学習提供しているのです。

世界遺産「熊野古道」で知られる紀州の地、南紀の海岸線は古くから県立公園として住民に親しまれてきました。住民挙って自然保護の取り組みが、平成27年度吉野熊野国立公園に編入されることになりました。

地道な住民運動による自然保護活動が、こうした結果をもたらしたとも言えます。地球規模で環境変化が進みますが、環境保全の観点からも次世代へ受け継ぐ活動を学ぶいい機会でありました。初代からこの活動に関わってこられた地元有志の方々にお話を聞く機会を得ましたが、何方も歴史を振り返りながら熱く語ってくれたことが忘れられません。あらためて「天神崎の自然を大切にする会（天神崎ナショナル・トラスト運動）」より、自然の大切さを痛切に感じた次第です。玉井先生始め会の皆さん、本当にありがとうございました。

～寄稿～

青年団活動の歴史をひもとく

北海道青年団OB会

会長 河野 順吉

(元深川市長)

昨年を顧みますと、国政にあっては師走選挙と慌ただしい中にも安定政権のもとで回復安定傾向にもある経済情勢を願うところであり、北海道の基幹産業である農業の発展および観光振興を注視するものです。併せて、東日本大震災からの復興こそが我が国の大きな課題であり、さらに昨年は多くの災害に見舞われた一年でもありました。一日も早く災害以前の生活に戻れることを祈ってやみません。

一方、喜ばしいことはノーベル物理学賞に日本で3名の諸先生が受賞されたことです。中村（米カリフォルニア大学）、赤崎（名城大学）、天野（名古屋大学）の諸先生が青色の発光ダイオード（LED）を開発し、日本国中が沸き上がりました。さらに富岡製糸工場が世界文化遺産に登録され、私の友人である元前橋市長の萩原氏へ喜びの電話をさせて頂きました。

昨年は全国青年団OB会第33回総会が日本青年館を中心に開催されました。日本青年館は、大正11年（1921年）9月に財団として設立され、大正14年10月に初代建物が完成しました。その後、昭和54年（1979年）には二代目が建設されております。このたび、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催等に向けた国立競技場の改築に伴い、2015年より移転が決定され、現在の日本青年館の道路向かいの敷地に建設されます。日本青年館に「ありがとう」そして「さようなら」と別れを惜しんだところであり、参加した一同は「人生の礎を培って頂き、感謝の気持ちで一杯」と感想を述べておりました。今年は岩手県で第34回の全国OB大会が開催されます。東日本大震災でご苦労される中での対応に心から敬意を表しています。

本年も本会の課題は例年と同じように環境にやさしく、お互いが心から信じ合えるコミュニティづくりをモットーに関係する皆様との対話を大切に努力したいと考えております。

昭和32年4月に私は深川市菊丘青年団に入団させて頂きました。以来、人生を振り返ってみると青年団運動が我が人生を育てて頂いたものと思っています。大先輩の竹下元首相・海部元首相・西岡元参議院議長各位が青年団出身であり、日本青年館・小里理事長もかつて青年団運動でご活躍されておりました。諸先輩の輝かしいご功績にその偉大さを感じているところです。このことから、私共OB会も歴史を大切にすることにも意を注がなければならないと思います。

田澤義鋪先生の理念は今日の社会教育の場において、その精神は受け継がれています。田澤先生は青年団の生みの親であり、その偉大さが各所に記されています。この田澤会の総会が昨年11月に開催され、出席した私も歴史の尊さを学んだところでもあります。昨年、明治神宮を参拝させて頂きました。鎮守の杜をかみしめて本殿へ向かう道のりは、九十余年の歴史とは思えない境内の杜づくりであること、この場所を訪れるたびに思うところです。明治神宮国際神道文化研究所主任研究員の今泉宣子様より、「明治神宮と青年団勤労奉仕」と題して講話いただいた折には、神宮の杜づくりは田澤先生ご指導のもと青年団も植樹に携わっていることが紹介されております。

青年団活動は歴史を学び、地域社会を良くしようと学習活動を続けておりますが、私共OB会も現役青年団の皆様と連絡協調を図りながら目的達成に努めて参りたいと思います。

来年開催の全国青年団OB会「第35回北海道大会」の成功に向け、準備態勢に入っておりますが、多くの関係機関・団体の皆様から限りないご理解とご支援を頂き、心から感謝申し上げます。鹿児島県出身の澤環さんの「いつでもいつまでも」というOB会ソングの一節にもあるように、「語り明かした仲間を信じ、支えあって信じ合ったあの日があるから今がある。永遠の魂いつまでも。誇り高き青年団、青春をふたたび」と記されています。この一節を心に秘めながら準備を進めていく所存であります。

私は今年の目標に、昨年お目にかかる機会があり、ご指導頂いた「笑顔一生」の江見明夫先生、日本スマイリスト協会会長・近藤友二先生の「人生は笑顔が大切」という言葉に強い印象を持ちました。この言葉は両先生ともに提唱されているものです。私もかつて現職の折には「笑顔の写真展」を開催し、好評だったことが思い出されます。このことを念頭におき、日々精進していきたいと思っております。

結びに皆様のご健勝とご活躍をご祈念し、笑顔で過ごさせて頂けますよう念じます。

随想29

全国生涯学習フェスティバル

古い話であるが、1994年、第6回全国生涯学習フェスティバルが富山市などを舞台に実施された。当時、常呂町の生涯学習推進会議議長をしていた私は、4名でこの研修に参加した。このような研修旅費を認めてくれた時代。今は夢のような話となっているらしい。その折に視察したいいくつかを町づくりの視点から紹介してみたい。

市内にある内山邸は、15世紀前半の新田開発で栄えた越中の豪農内山家の440坪の当時の建物を資料館にしたものである。北海道では見られない歴史の重みを感じた次第である。

民俗民芸村は、越中富山の薬で有名な売薬資料館、篁牛人（たかむらうしひと）記念美術館、陶芸館、考古資料館、民芸合掌館、民芸館などをもつ村である。130年前の合掌造りの民家を資料館にするなど、ここにも歴史の息吹を感じることができた。そしてこの村の奥の竹林には、江戸時代に佐渡から運ばれてきたという530余体の羅漢がひっそりとたたずんで祀られている。

前田利長一族の居城とされる富山城は、1543年の築城。今の城址は1954年に建てられたもので、現在は歴史博物館として機能している。

富山市近くの小矢部市（当時の人口36,000人）

では、公共建築物の改築に当たって、中世ヨーロッパのゴシック風寺院、スイスの中世の城、札幌時計台、東京大学安田講堂などをモデルにして建てたものなどメルヘン建築がユニークであった。1977年から保育所・公民館・学校など当時で36施設がこの建築であった。企業もこれに合わせてまちづくりを実践し始めたという。他にも自動車博物館、ヴォイス・ミュージアム、ダ=ヴィンチ・テクノミュージアム、118mタワーをもつクロスランドおやべなどがあり、積極的なまちづくりを展開している。クロスランドは、高速道路が交差する北陸の十字路にこの小矢部市が位置することから、交流のまちづくりの中核にしようという発想とのこと。クロスランドセンターには930席ほどのメインホールがあり、座席は日本初の回転可動式で、平土間状態にもできるシステムを採用している文化ホールである。

以上、まちづくりの一例としていくつかを紹介してみたが、他の市町村での事例もたくさんあり、成功・不成功はあろうが、積極的な挑戦は評価されるべきであろう。「まちづくりはひとづくり」と言われ、その成果を期待する動きとしてとらえられよう。まちの活性化はひとの活性化からである。

（公財）北海道生涯学習協会
会長 宇田川 洋

新入会員紹介（敬称略）

協会職員の動き

次の方が新たに賛助会員になりました。
今後ともよろしくお願いたします。

■ 採用 4月1日付け

個人会員

・秋本 博子

学習振興課主事 木元 希（新採用）



編集後記

通勤途中の道端に草花が芽吹き、ほほを伝う風の冷たさも少し優しく感じられる日和となりました。

当協会では、平成26年度に計画しておりました事業等も、皆様のお力添えによりまして滞りなく終えることが出来ました。新年度の事業計画を掲載させていただきましたが、新たな視点や工夫により、より充実した事業となるよう努めて参ります。

当協会の賛助会員でもあります「北海道青年団OB

会」河野順吉会長から玉稿を頂戴いたしましたので、今号にご紹介をさせていただきました。ご多忙の中誠にありがとうございました。

なお、事業計画等掲載の関係から「わがまちの生涯学習」と「私の生涯学習」はお休みといたしました。

新年度におきましても、職員一同、各事業の推進などに努めてまいりますので、引き続き、皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。